

# 感覚を研ぎ澄ます空間

指導教員 吉松秀樹教授 印

7AEB3106 今野 未奈美

## 1. 問題意識「五感機能の衰え」

DIALOG IN THE DARKで暗闇空間体験をし、私たちは日常生活の中で五感を働かせなくなっていることに気づいた。周囲を敏感に感じとれる感受性豊かな空間をつくるのが、現代の人や都市に必要なものではないだろうか。

## 2. 調査「研ぎ澄まされる」

### 2\_1. 慣れによる鈍感化

都市には人工的につくられたモノや音からの情報が多すぎ、必要な情報だけを得ようと感覚を制限する。よって、外界からの刺激を閉ざすことに慣れ、感覚が研ぎ澄まされることは皆無に等しい(Fig.1)。



Fig.1 情報が多すぎ、必要な情報だけ感じとり分けている

### 2\_2. 鋭敏

研ぎ澄まされるとは、心の働きを鋭敏にすることである。いくつかの洞窟を体験した際に捉えにくい周辺環境を身体で感じ、それを元に空間を捉え、場を知ろうとし、感受性が揺さぶられた(Fig.2) (Fig.3)。



Fig.2 研ぎ澄まされた大岳鍾乳洞

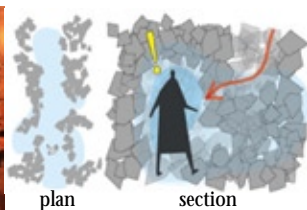


Fig.3 大岳鍾乳洞plan/section

## 3. 分析「捉えにくい空間」

調査によって、捉えにくい空間を身体を通して感じようとすることで鋭敏になった。あらゆるところにある穴や空間、高低差・幅員の変化、奥が見えないということが要素だと思われる。要素をふまえ、洞窟に近いイメージモデルを作成する(Fig.4)。



Fig.4 洞窟イメージモデル

## 4. 手法「多面体を組み合わせる」

分析から得た様々な方向への意識をさせるため、多くの面をもつ菱形十二面体を用いる。多角形の中でも、見る方向によって四角形や六角形など変化し、いつも組み合わせることが可能である(Fig.5)。



Fig.5 菱形十二面体の変化

組み合わせると、内部と外部空間が隣合わせに出来、また空間に歪みがでる。それは、空間を揺さぶらせ捉えにくくさせる。また、繋がった内部空間は様々な方向に関係を持ち境界線を曖昧にさせ、多くの方向性を意識させる(Fig.6)。

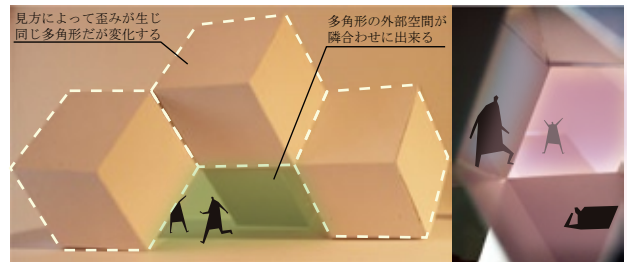


Fig.6 菱形十二面体による外部と内部の可能性

## 5. 設計「様々な方向を意識させる住宅」

菱形十二面体を様々な方向に配置する。斜めにも方向性が出来ることで、空間や外界との関係性が変化する。壁が斜めにあることで、身体と建築にも触れたり利用する関係が出来、五感で捉え感受性が揺さぶられる住宅となる(Fig.7)。



Fig.7 section